



広範な知的オーディエンスのための総合雑誌を誌面イメージで提供 The Listener Historical Archive 1929-1991



センゲージラーニング株式会社

◆イギリス人の文化生活における BBC — The Listener の資料的価値を理解する鍵◆

”The Listener Historical Archive 1929-1991”は、1929年にBBC(イギリス放送協会)より創刊された雑誌”The Listener”を、創刊から1991年の最終号まで、全ページをフルカラーで完全収録するデータベースです。

The Listener というイギリスの雑誌は、一部の専門家を除けば、内容はもちろん名前すら一般には知られていないでしょう。この雑誌を理解するために、まず発行機関であるBBCがイギリス人の文化生活の中でどんな位置を占めているのかをみたいと思います。

音楽を例に取れば、BBCはクラシックからジャズ、ポップス、ロック、ワールドミュージックまで、多くの演奏を放送しています。また、毎年夏にロイヤル・アルバート・ホールで開催されるクラシック音楽祭プロムスの主催者、さらに音楽家への助成機関としても、BBCはイギリス音楽界に多くの貢献をしています。

舞台芸術に眼を向ければ、毎年多くの演劇やミュージカルの制作、放送に携わり、多くの作家、演劇人に対する助成を行っています。

音楽と演劇に関しては、BBCは今でもイギリス最大の制作委託機関として知られています。

その他、BBCの教養番組、ドキュメンタリー番組のクオリティは世界が認めるどころでしょう。時に「イギリス最大の輸出品」と言われる通り、BBCは報道、ドラマ、語学等を提供する中でイギリスというブランドを高める役割を果たしてきました。

BBCは創立以来、公共放送として、視聴者に「情報を提供し、啓蒙し、楽しみを提供する(inform, educate and entertain)」ことをミッションとして掲げてきました。多くのイギリス人がBBCの放送を通じて文学、舞台芸術、音楽等の芸術に接してきたことを考えると、イギリス人の文化生活の中にBBCが深く根付いていることが伺えます。

◆BBCの高級誌:The Listener◆

The Listenerは放送番組のテキストを永続的に保存することを目的として1929年に創刊されました。BBCが発行する雑誌としては、The Listener創刊の6年前に創刊されたRadio Timesがありますが、The ListenerはBBCの高級誌、Radio TimesはBBCの大衆誌と言え、分かりやすいでしょう。とは言え、Listenerが少数の読者だけを対象とする雑誌であったかというそうではなく、むしろBBCのミッションに則し、広範な知的オーディエンスを读者とする雑誌と規定するのが相応しいでしょう。

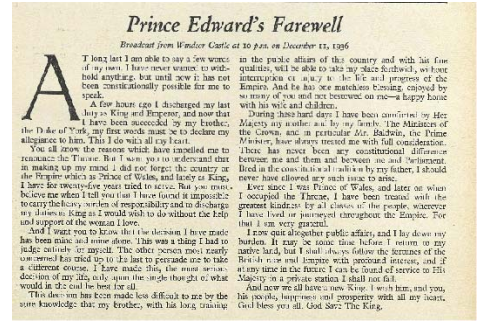
◆初期の放送番組に関する唯一の記録資料◆

放送初期の番組を記録したテープは、再利用されることが多かったため、残っていないケースが多く、テキストの形で残っているスクリプトが唯一の資料です。BBCの初期のラジオ、テレビ番組の内容を知るにはThe Listenerを参照するのが唯一の手段です。記事は大半がラジオ、テレビ番組のスクリプトや番組評で、放送番組に関わりを持たない記事は全体の約10%です。



The Listener に掲載された放送テキストの例:

- ✓ エドワード 8 世退位スピーチ
- ✓ 第二次世界大戦勃発に際しての国王ジョージ 6 世のイギリス国民向けメッセージ
- ✓ 国民医療サービス(NHS)の開始を告げるアトリー首相の演説
- ✓ 歴史家 A.J.P. テイラーの連続テレビレクチャー
- ✓ BBC の看板報道番組 Panorama



◆書評誌としての The Listener◆

周知の通り、イギリスには書評を重んじる伝統があります。Times Literary Supplement (TLS), London Review of Books(LRB)のような書評専門誌の他にも、新聞や雑誌に多くの書評が掲載されます。それらの書評は日本の書評と比較すると長大で、また一個の批評作品として読むに堪えるものが多いと言われています。TLS, LRB のような書評専門誌を筆頭に、Sunday Times, New Statesman, Observer, Spectator 等の書評欄は、書物や文化の最新動向を知るためにはフォローしておきたいと見做されてきました。そして The Listener も、その風格を備えた定評ある書評は高く評価されてきました。

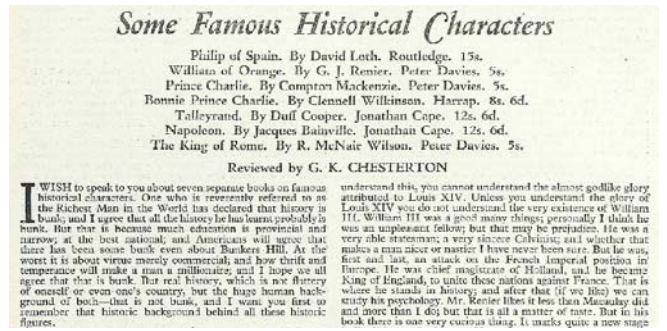
書評は第一義的には最新の文化動向を知るツールとして利用されますが、それだけであれば古い書評を参照する必要はないでしょう。しかし、書評が批評であり、また批評の時代的変遷自体が研究対象になり得ることを考慮すると、The Listener に掲載された書評も依然として学術的価値を持つことは言うまでもありません。

◆文芸誌としての The Listener◆

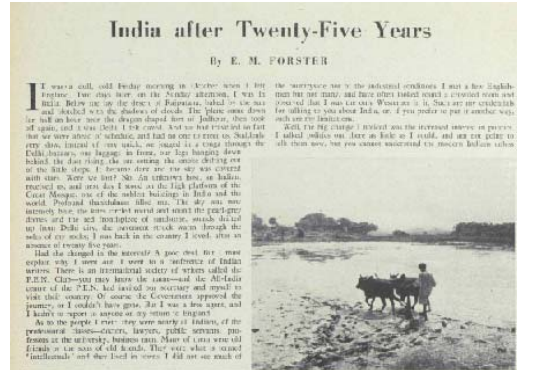
The Listener は新人作家の発掘でも大きな役割を果たしましたが、これは文芸欄の編集者 J.R. Ackerley の功績に帰せられると言われています。Listener に作品を発表した夥しい数に上る作家の中には、W.H. オーデン、S.プラス、C. イシャーウッド、S. スペンダー、P. ラーキンらがいます。また The Listener は、詩人の新作を掲載したことでよく知られています。新作の詩とこれに対する作家の批評を読むことで、詩が公表された時の文脈を発見することができるでしょう。BBC が放送する教養番組の一つに作家へのインタビューがありますが、The Listener はインタビューの SCRIPT を多数掲載しました。1950 年代のキングズリー・エイミス、1960 年代のナボコフ、1970 年代の I.マキューアンのものが代表的なものです。

ソルジェニーツィンへの国外追放後初めてのテレビインタビューも The Listener に掲載されました。これらは作家の伝記にのっての貴重な資料であるとともに、インタビューの中で引き出される作家の生の声は、その作品を理解する鍵を提供するでしょう。

The Listener の作家として、E.M. フォースターの名前を忘れることはできません。1930 年頃から 1970 年頃まで 40 年間に亘るフォースターの The Listener での批評は、書下ろしの書評から、BBC ラジオ番組での作



G.K. チェスタトンの書評(1932 年 11 月 9 日号)



家論、『インドへの道』刊行 25 周年を機に再訪したインド紀行など多方面に及びます。さらに、Listener には多くの批評作品が掲載されました。後に『言語と沈黙 (Language and Silence)』に収録される批評家ジョージ・スタイナーの『言葉からの退却 (The Retreat from the Word)』は、BBC の第三プログラムで放送されたものが The Listener に二回に亘り掲載されたのが初出です。その他、『青髭の城にて (In Bluebeard's Castle)』など、スタイナーの重要テキストが The Listener には掲載されています。

◆政治、経済から科学技術、文学、芸術、大衆文化、宗教、旅行、料理、ガーデニングまで◆

The Listener が掲載したのは書評や文芸関係の記事だけではありません。BBC の放送番組の多様さがそのまま The Listener の記事の多様さになっています。国民医療サービス (NHS) の開始を告げるアトリー首相の国民向け演説、経済学者ケインズの時論、物理学者ロバート・オッペンハイマーの講義、美術史家ケネス・クラークの記念碑的「文明」シリーズ講義、動物学者デヴィッド・アッテンボロウの講義など、広範なテーマに及びます。

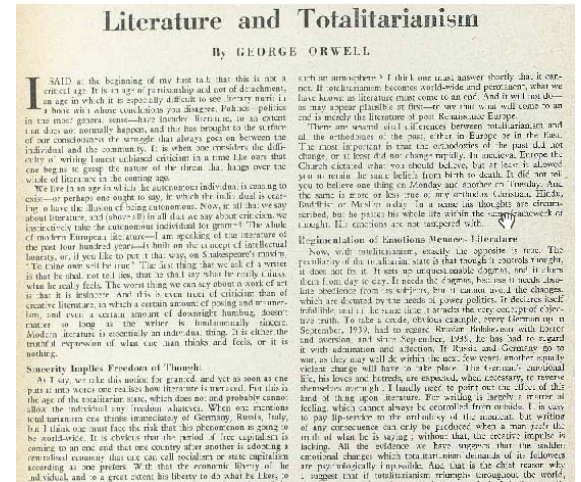
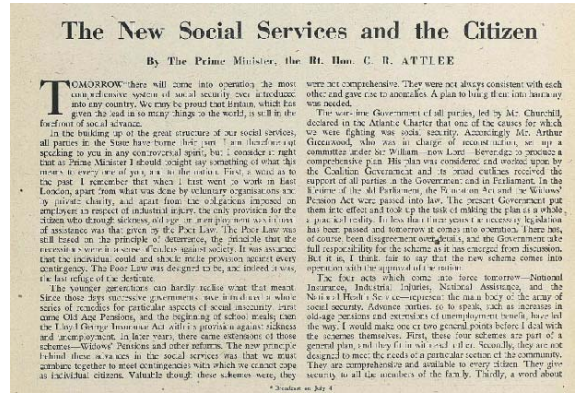
◆「戦時下のメディア」研究の恰好の資料◆

第二次世界大戦は、参戦した各国では前線の兵士だけでなく銃後の国民も戦時統制に組み込まれ、国民総力を挙げた戦われた総力戦として知られています。もちろん、メディアも戦時統制下に置かれました。1936 年に始められたテレビ放送が国防上の理由から中断させられると、BBC ラジオが情報のライフラインとしてイギリスの国民生活を支える上で大きな役割を果たしました。

BBC は対外宣伝放送に知識人をはじめ多くの人々を動員しましたが、中でもジョージ・オーウェルの活動はよく知られているところです。The Listener にはオーウェルの BBC ラジオ放送番組の SCRIPT が掲載されています。また BBC は、疎開児童向けに教育番組を提供することで教材の不足を補い、一般市民の生活に役立つ番組を提供することで物資や食糧の欠乏を補いました。一例を挙げると、1940 年に Listener で始まった "The Housewife in War Time" は主として料理のレシピを提供するコラムで毎週掲載されましたが、戦後は "Advice for the Housewife", "Recipes for the Housewife", "Broadcast Suggestions for the Housewife" と名称を変更し、The Listener の長期連載記事になりました。

◆メディア、イギリス史、イギリス文学の研究者のための資料◆

The Listener が BBC のラジオ、テレビ番組に基づいて刊行されたことを考えると、メディア、マスコミの研究者が主要な利用者として考えられますが、先に述べた通り、BBC が国内ではイギリス人の生活に深く根付き、対外的にはイギリスブランドを象徴する存在として表象され、また The Listener という雑誌が極めてイギリス的な雑誌であることを考えると、「イギリス(人)とは何か」、「イギリス史(文化、文学)とは何か」、という問いを潜在的に発する学問であるイギリス史、並びにイギリス文学の研究者が、The Listener の本来の読者であるといえるでしょう。



◆Gale NewsVault◆

”The Listener Historical Archive 1929-1991”を導入すると、新聞・雑誌を横断検索するプラットフォーム Gale NewsVault でもご利用になれます。

- ✓ 新聞、雑誌を単一インターフェースで横断検索します
- ✓ 17世紀から現代までの総ページ数 1,000万ページ以上の新聞、雑誌を収録します
- ✓ 収録新聞、雑誌の全文をフルテキスト検索します
- ✓ 記事名、新聞・雑誌名、著者名、発行日、発行地で検索可能です
- ✓ 著名な新聞から、地方新聞、社会運動の機関紙、文芸雑誌、挿絵雑誌、書評誌、写真誌、報道番組のトランスクリプトまで、収録します
- ✓ 記事単位で印刷、メール配信、ダウンロード、書誌エクスポート、ブックマークが可能です
- ✓ 導入していない新聞、雑誌についても、書誌情報が閲覧可能です
- ✓ Gale の歴史新聞・雑誌データベースを一つでも購入すれば、無料でご利用になれます

Gale NewsVault で横断検索できる新聞・雑誌データベース

- ◇ Sunday Times Digital Archive, 1822-2006
- ◇ Illustrated London News Historical Archive, 1842-2003
- ◇ Times Literary Supplement Historical Archive, 1902-2007
- ◇ Listener Historical Archive, 1929-1991

他

”The Listener Historical Archive 1929-1991”に関するお申し込み、お問い合わせ*は、株式会社 紀伊國屋書店 電子商品営業部（電話：03-6910-0518、ファクス：03-6420-1359、e-mail：online@kinokuniya.co.jp）までお願い致します。

*お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。